

駒ヶ根市文化財

名称	大田切城跡
種別	史跡
指定	市・史跡(昭和 45. 4.24)
所在地	赤穂北割一
説明	<p>広域農道が太田切川を宮田村へ渡る東側の断崖上に松と杉の林が見える。これが大田切城跡である。</p> <p>現在、西、南と東に空堀が見られるが、かなり埋まっている。構築当時は深さ 3m 以上、上幅 3m くらいあったと考えられる。規模は東西 40m くらい、南北は北側が太田切川の激流によって削り取られており、一部を遺すのみである。</p> <p>付属の館は南側にあったと思われ、久根下(くねした)・広表・堀田・門畑・垣外・古屋敷など、居館に関すると思われる地名が残っている。水田化してしまった現在では、当時の縄張り、その規模などを想定することは困難である。</p> <p>大田切城が文献上に現れるのは、平安末期である。</p> <p>大田切城は、東海道の小田原城、北陸道越前大野の燧(ひうち)ヶ城と並んで、東山道の固めとしての役割を持ち、平家一門の東国における重要な前線拠点の一つであった。また、応保・長寛年間(1161～1164)越前大野城主平友重の四男友則の構築と記している。</p> <p>この固めの城も、治承 4 年(1180)8 月、源頼朝挙兵に呼応して起こった甲斐源氏の武田信義、一条次郎忠頼によって、同年 9 月に一戦を交えることもなく、館に火を放ち自刃して果てた。これについては、鎌倉幕府の「吾妻鏡」に次のように記されている。</p> <p>「…平氏方人菅冠者伊那郡大田切郷之城、冠者聞之、未戦放火於館、自殺の間云、各陣根上河原、相議云根、去夜有祝夢想、今想菅冠者滅亡…」</p> <p>大田切とあることからして、文献にあらわれる「大田切城」は、前記の資料などから判断して、この大田切城跡と判断して良いと思われるが、この他に赤穂中割の西方荒城、宮田村などの諸説もある。</p>



大田切城跡(南より)